

# PHC株式会社

吉野川左岸、穴吹橋から上流へ600mを担当



吉野川を見晴らす丘にたつ健康・医療機器メーカー・PHC株式会社(旧 パナソニックヘルスケア株式会社) 脇町地区。社会貢献の一環としてアドプトに取り組んで20年になります。県外からの赴任者も多いそうですが、どうです、この熱心さ! 週末には県外へ帰る単身赴任者も「アドプトをしてから帰る」そうで、意識の高さに驚かされました。

「吉野川、めっちゃめっちゃきれいですよ! 徳島の自然を満喫しています」と話してくれたのは愛媛出身の日野善文さん。年3回のアドプトにはお子さんとともに参加しています。「掃除しながら、ほかの部署の人と話ができるのもいいですね」と日野さん。河川清掃が社員同士のコミュニケーション・ツールのひとつになっているようです。



竹林の付近には大型ゴミがしばしば

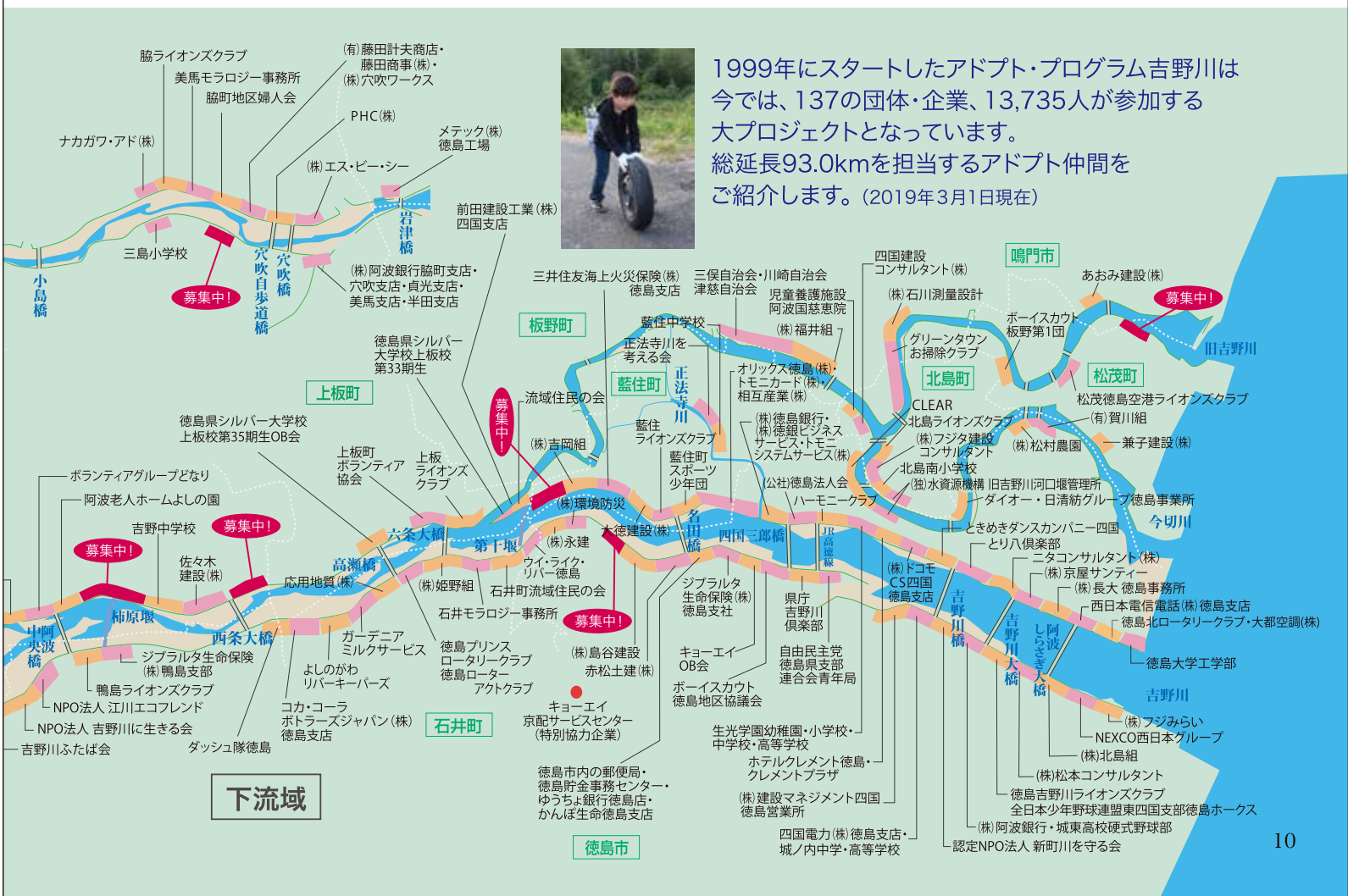
# 阿波バラス株式会社

阿波バラス株式会社は吉野川市山川町で川砂・砂利などの採取・販売を行っています。平成26年からは吉野川の河川協力団体として河川のゴミやコンクリートガラ処理も行っており、吉野川とは深いつながりがあります。アドプト・プログラムにももちろん参加。ほたる川樋門から上流へ1400mが担当区間です。20年も続けていると、どこにどんなゴミがあるのかしっかり把握しており、「同じ人が捨てよるんやな」と分かるとか。それでも「ゴミはすごく減った」そうです。

吉野川から採取したミネラル豊富な砂は、徳島の特産品・なんと金時の「手入れ砂」として使われます。「吉野川の砂は質がいいんですよ」と、うれしそうに話してくれた社員さんの表情が印象的でした。



チームワークもバッチリ!



1999年にスタートしたアドプト・プログラム吉野川は、今では、137の団体・企業、13,735人が参加する大プロジェクトとなっています。総延長93.0kmを担当するアドプト仲間をご紹介します。(2019年3月1日現在)